

(様式1)

令和5年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
富山県中央植物園 森林政策課

2 施設所在地
富山市婦中町上轡田42

3 施設設置年度
平成5年度

4 設置目的
県民に植物に関する多様な学習と憩いの場を提供し、県民の教育及び文化の向上並びに福祉の増進に寄与することを目的とする。

5 施設概要
敷地面積：244,919.61㎡
主な施設
・管理研修棟：鉄筋コンクリート造2F 1,949㎡
・サンライトホール（催し広場）：鉄筋コンクリート造平屋 1,614㎡
・ドリアスホール（多目的小ホール）：木造平屋 155㎡
・展示温室：鉄骨平屋5棟 2,839㎡
・屋外展示園：日本・世界のゾーン等 163,200㎡

6 指定管理者
公益財団法人 花と緑の銀行

7 指定期間
5年
令和4年4月1日 ～ 令和9年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

R1	R2	R3	R4	R5
111,917	92,746	108,483	129,367	111,657

(1-2) さくらまつり入園者数（人）

R1	R2	R3	R4	R5
16,994	5,310	14,365	21,964	18,759

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

R1	R2	R3	R4	R5
13,578	11,677	13,593	16,658	13,943

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

R1	R2	R3	R4	R5
16,412	16,612	16,812	15,812	16,112

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

前年度は、サクラが3月に満開を迎え、令和5年3月の入園者数が過去最高となった一方、令和5年4月の入園者数は前年度より減少。
夏の猛暑と残暑、秋の週末の雨天続き、2月下旬から3月の寒の戻りなどから年間の入園者数は111,657名と令和4年度129,367人よりは17,710人減少したが、コロナ禍前の水準を上回る入園者数となった。
収入については、R4からは2,715千円減収となったものの、R1～3年の平均を上回る利用料金収入を確保することができた。

(2) サービス向上に向けた取組み

・障がい者用駐車場の設置場所を入園口に近づけるとともに、乗降スペースを拡張することで利便性を向上させた。
・「植物園くらぶ」「ボタニックガーデンクラブ」については、従来の電話による先着順の申し込みを改め、WEBでの参加申し込み・締め切り後に抽選を行うことに改善した。この結果、時間外や、期間内であれば余裕をもって申込できることとなりサービスの向上につながったうえ、イベントの潜在的な需要を把握することができた。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

新たに開催したオックスフォードガーデンパーティや、NHK朝ドラ「らんまん」関連イベントとして開催した牧野標本特別公開、今年度からリニューアル開催したウィンターフェスなどは大変好評であり、入園者増加に貢献した。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	実施期間：通年 実施方法：インフォメーションコーナーにアンケートBOX設置
回答者数	299
結果	入園者の100%がまた来たいと回答した。
結果を踏まえた改善事項	特になし。

② その他利用者の声を反映させる取組み

財団独自に第三者からなる事業評価委員会を開催して、各方面からの意見を伺い、事業運営に反映させている。

③ 主な苦情と対応

・当園の駐車場は入口、出口がそれぞれ専用口になっているが、出口から入る車がいたことから苦情が寄せられた。
→ 駐車場の出入口がそれぞれ専用口にならないよう出口・入口の標記を廃止したことで、利用者は徐行して出入りするようになった。なお、出入口は2台の車のすれ違いが可能であるよう2車線分の幅が確保されていることに加え、道路への手前には一時停止線が設けてあり、出入口の安全は確保されている。
・ウッドデッキの腐食による、板の浮き上がりや釘の飛び出しによるつまづきなどの苦情が寄せられた。
→ 根太が腐食し、板の交換が困難となったことから、入園者の安全確保のためR6.3から立入禁止とした。

(5) 個人情報保護の取組み

個人情報に関する指針を定め、職員に周知を図っており、適切な個人情報保護が図られている。

(6) 関係団体との連携

- ・富山県植物公園構想に基づく植物公園連絡協議会の事務局として、植物園スタンプラリーの実施、合同研修会の開催、情報交換を実施。
- ・博物館実習、教員研修、インターンシップ、適応指導教室などの研修等を受け入れている。
- ・県内の蘭協会や富山サボテン会、ウチョウラン保存会など、各種団体と連携しながら、多彩なイベントの開催に努めている。
- ・関係団体に講師等として職員の派遣や、各種委員を受託している。
- ・(公社)日本植物園協会主催の大会・総会等への参加、植物種多様性保全拠点園ネットワークへの参加をしている。
- ・国内植物園のほか、イギリスオックスフォード大学植物園などの海外植物園との共同研究、種子交換、文献交換を実施している。
- ・地域連携として、大型ショッピングセンター内でのスイーツ割引クーポンの配布や大型ビジョンでのイベントの紹介、ポスター掲示やチラシ等の配布、校下のウォーキング会での利用、ウインターフェスでの県内生産者、農業高校、雑貨・クラフト展の出店などを実施している。

(7) 施設・設備の維持管理

設備の定期的な点検や保守を行ったほか、経年劣化した設備、機器について、順次修繕を実施している。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

- ・富山県中央植物園危機管理マニュアルを10年ぶりに改正し、既存項目に加えて新たな項目を追加したうえで、危機管理・安全管理に努めている。
- ・富山県中央植物園消防計画に基づき火災の予防、防災訓練を実施している。

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有/無	回数(有の場合)
有	12
有	4
有	1
無	—

【トラブルの具体的内容と対応】

・Webでのイベントの申込時にプログラムミスにより申込者1名の個人情報が閲覧できる状態となっていたため、Web受付を中止し、プログラム点検・修正を行った。

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

- ・リピーターを増やしていくため、引き続き、サービスの向上や広報に力を入れていく必要がある。
- ・施設や設備の老朽化により、修繕箇所の増加が懸念されるが、来園者の安全を最優先に考え計画的に修繕を実施していくことが必要である。
- ・収入確保のため、園内バス、植物ガイドの利用料金の見直しやインフォメーションでの物販を強化してゆく。